

2024年度 仏教学科 夏の法要

テーマ

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

今年も「夏の法要」の季節がやってまいりました。

今年のテーマは、「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」です。

このテーマは、2023年の春に真宗本廟(東本願寺)で行われた、宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要のテーマです。

親鸞聖人は、「人間」という言葉について「ひととうまるるをいう」(『唯信抄』・『真宗聖典』1094頁)と解説しています。

「人」について、宮城 顛先生は、

私は私として既に存在し成り立っていて、その私がまわりの人々と関係をもつ、というのではなく、まわりの人々との関係においてはじめて私が成り立っていくのである。

(『テキスト 本願文』上・7頁)

と述べられています。では、この私を成り立たせている「まわりの人々」とは、一体どのような人を指すのでしょうか。家族や友人、または関わったことのない赤の他人も含まれているのでしょうか。

一人では生きられない私たちに、「人と生まれたことの意味をたずねていこう」というテーマはどのようなことを問いかけているのでしょうか。また、「人と生まれたことの意味をたずねていこう」という言葉の前に「南無阿弥陀仏」という言葉が入っています。この二つの言葉には、どのようなつながりがあるのでしょうか。

今回は、「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」というテーマのもと、「夏の法要」を勤めます。皆様のお越しを心よりお待ちしております。